

令和6年8月24日

令和6年度つながる鎌倉エール事業地域活性化コース 審査結果

事業名		審査項目							合計	結果
		事業の公益性	事業内容	目的の設定	手段の適切性	費用の妥当性	継続性 発展性	先駆性 専門性		
1	六国見山里山再生活動 （北鎌倉湧水ネットワーク）	4.2	8.2	4.2	4.0	2.8	3.4	3.6	30.4	採択
2	”孤立遠地を含めた”スマホの使い方サロン （The 和み Space Connected）	3.8	6.2	3.2	3.0	2.8	3.0	3.2	25.2	採択
3	俺たちdeこの街つくろうぜ （トランスフォーマーズ）	2.8	4.4	2.8	1.8	2.0	2.0	2.4	18.2	不採択

※各項目の平均点数の合計が24点以上の場合に採択

鎌倉市市民活動推進委員会選考部会からの講評

1 六国見山里山再生活動（北鎌倉湧水ネットワーク）

■活動の担い手がいけないことは心配ではあるが、活動の広がりによって担い手が増えるのではないかと期待できたことはよかった。

■組織を存続させることに執着せず、同じ思いを持つ他の団体にバトンタッチしていく考え方は、団体の継続方法として新しい手法であり、評価できる。

■事業自体は公共性があり評価できるが、「地域のつながりをつくる」という地域活性化コースの趣旨を踏まえて企画されたとおよかった。今後、他の助成金を申請することがあれば、この点を意識いただくとよろしいのではないかな。

■関係する団体との連携を図っていただくとともに、団体としての歴史だけではなく、団体として培ってきたノウハウも残していただきたい。

2 ” 孤立遠地を含めた ” スマホの使い方サロン（The 和み Space Connected）

■高齢者一人ひとりのニーズをくみ取った取組が行われており、地域密着による高齢者のデジタルデバインド対策として、公共性の観点からも評価できる。

■また、スマホ教室自体が目的ではなく、その手段を通じて地域のつながりをつくることを目的としていることも評価できる点である。

■一方で、企画書からは「社会的に孤立している市民全員」を対象にしている事業であると読みとれるが、参加費が必要な本サロンに参加できる方は、ある程度健康で生活に余裕がある人であると想定される。そのため、対象により参加費の金額を変えるなど、金銭面・健康面の要因により孤立している市民への対応は今後行っていくのか、あくまで現在の対象者に絞った事業とするのか、団体としての方向性を明確にしておくが良い。（参加費を徴収することを評価していない訳ではなく、課題解決の方向性や対象者を絞り込むとより質の高い取組になることが期待できる）

3 俺たちdeこの街つくろうぜ（トランスフォーマーズ）

■減災というテーマで、子どもたちを対象に、参加者同士のつながりをつくることを目的にした事業であるという点は評価できる。取組の方向性は地域活性化に合致した取組であることから、応援したい事業であり、団体の熱意も伝わる。

■しかし、実現可能性の観点で評価することが難しい。当事者である子どもたちの声を直接聞き、ニーズをくみ取って企画するとなお良い。

■自発的に発案・企画し取り組んでいるGenkaiの手法を学び、事業の進め方・取り組み方について、時間をかけて練り直して再チャレンジしてほしい。

● 審査選考会全体の総評

■本コースを通じて団体の活動に広がり生まれ、事業の質も高まるようなコースを目指していきたい。このコースへの応募を通じて、団体がステップアップしていくことが望ましい。

■そのために、提案書の記載項目を現在より細分化するなど、地域活性化の視点を団体自身が認識・確認できるような様式にすることが望ましいのではないか。

■加えて、地域活性化コースの趣旨である「地域のつながり」をどう実現するかを企画に盛り込んでもらいたい。コースの趣旨を理解して応募してもらえよう、申請前に周知する方法を検討する必要があるのではないか。

■予算の部分も含め、申請書の正しい記載方法を団体が勉強できる仕組みを事務局として検討する必要があるのではないか。